

2022年05月24日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【金利差を狙うのではなく、キャピタル・ゲインを狙うこと】

通貨間に、金利差があるということは、低い金利の通貨を売って、高い金利の通貨を買えば、その金利差を受け取れる、ということです。

では、金利とは何でしょうか？

金利は、その通貨を発行している国の「インフレ率」です。

ある通貨の金利が高いということは、その国（その通貨を発行している国、または国々）のインフレ率が高い、ということです。

ですから、インフレ率が高い国、または国々（ユーロなど）の通貨価値は、いずれ下落することになります。

いずれ下落するのですが、その「いずれ」が、いつになるのかは、誰にもわかりません。

この「いずれ」にぶつかると、それまで金利差を享受していても、元本そのものの価値が減少する、ということになります。

つまり、金利差で稼いだ利益以上に、「為替差損（キャピタル・ロス）」で損をしてしまうことがあるのです。

しかし、外国為替市場には、トレンドがありますから、金利が高い通貨であっても、その価値が上昇することがあります。

ということは、金利差を享受しながら、「為替差益」をもダブルで享受できる場合（時期・期間・タイミング）がある、ということです。

+++++

個人的には、外国為替取引は、受け身の金利差を狙うのではなく、「キャピタル・ゲイン（為替差益）」を狙うこと、——つまり、トレンドを狙うこと——が原則だ、と考えています。

具体的に例示した方がわかりやすいでしょう。

例えば、ドル/円レートが「上昇トレンド」にあるとします。

そのときは、ドル／円を買います。

そして、そのときは金利差を受け取れます。

しかし、ドル／円レートが「下降トレンド」にある場合は、ドル／円を売るべきです。

ドル／円を売って、「キャピタル・ゲイン（為替差益）」を取ります。

この場合は、金利差を支払うこととなりますが、それは、「取引をする上でのコスト（費用）」に過ぎません。

為替変動があることを考えれば、金利差を払っても、十分な「キャピタル・ゲイン（為替差益）」を得られるはずで

つまり、金利差は、「おまけ」ということです。

認識としては、「金利差を享受できれば、なおラッキー」といった程度に過ぎません。

+++++

しかし、すでに述べた通りですが、いつ何時、「いずれ」がくるのかは、誰にもわかりません。

そして、繰り返しますが、外国為替取引（FX取引）は、金利差を狙うのではなく、キャピタル・ゲインを狙うこと、——つまり、トレンドを狙うこと——が原則だ、と考えています。

金利目当ての外貨投資は、最終的には、損する可能性が高い、と考えます。

そういう投資手法はすすめることができない。

だから、キャピタル・ゲインを狙うのです。

+++++
+++++

（2022年05月24日東京時間14:05記述）